

## 新しい住まいの形 コミュニティづくり

～日本版CCRCを考える～



(株)コミュニティネット  
高橋 英與  
(たかはし・ひでよ)

1948年岩手県花巻市生まれ。設計事務所勤務を経て、(株)連空間設計を設立、代表取締役就任。コーポラティブハウスづくりを手がける。1987年、株式会社生活科学研究所(現社名:株式会社生活科学運営)を設立し、高齢者住宅や有料老人ホームづくりに携わる。2005年、生活科学運営の経営を若手に移行。2006年、株式会社コミュニティネット代表取締役就任。自立型高齢者向け住宅「ゆいま〜るシリーズ」を展開し、団地再生・過疎地再生、福祉の町づくりをテーマとしたコミュニティづくりを進めている。著書に『街の中の小さな共同体』(中央法規)他。

新連載 石破大臣の来訪

## 「ゆいま〜る」が事業モデルに

ハウスの食堂でそばを打つ、ヘアをカットする、巡回送迎車を運転するなど、他の入居者のために仕事をし、報酬を得ているほか、入居者自身が文化イベントやセミナーを企画・開催し、定期刊行物を発行するなど、ハウス運営に参加しているのが特徴です。そこに「まち・ひと・しごと創生本部」が注目し、石破大臣の視察が実現したのでした。

ゆいま〜る那須で大臣一行を迎えた私は、自然環境に恵まれた広大な土地のなかで、高齢者が仕事をもち、自らハウスを運営しながら生き生きとした暮らしを目指すと、いうハウスのコンセプトを説明しました。石破大臣はゆいま〜るシリーズの仕組みに興味をお持ちになった様子でした。最後はゆいま〜るの食堂で、食事とお酒を楽しみながらの懇談となり、そのとき私は大臣に次のような提案しました。

日本版CCRC構想有識者会議のメンバー構成を見ると、素晴らしい方々が揃っておられる。ただ、学者や研究者、ジャーナリストなど有識者だけでは課題を指摘し解決策を提示できても、それを実行することはできない。それを可能にするには事業者の存在が必ずや、コミュニティネットのような、事業を通して課題を解決してきた組織が加われば、日本が抱えている現状の問題を解決できると。弊社は、これまで地域が抱える問題を、高齢者住宅の運営を通して解決してきました。ゆいま〜る那須も「地元」に別荘をもっていた

「日本版CCRCを導入するためには、事業者の集まりである連絡協議会が不可欠である」とも石破大臣に申し上げました。

創生本部から「有識者会議でプレゼンをしてほしい」と電話があったのはその数日後のこと。入居者が主体となって運営に携わることを基本とする弊社の高齢者住宅のことを話し終えると拍手が起りました。

それを契機に地方創生の解決のためにCCRC事業化連絡協議会が準備されています。

介護 B i z

2015年2月末、弊社の考えを明らかにしているサービス付き高齢者向け住宅「ゆいま〜る那須」に石破茂・地方創生担当大臣が視察に来られました。大臣はその4日前、有識者会議を設け、日本におけるCCRCの導入を本格検討する

「ゆいま〜る那須」の入り居者は78名。54人が関東圏、7人が関西圏から移り住み、自分のキャリアを生かし、

石破大臣の来訪は、ゆいま〜る那須の運営に大きな影響を与えた。この機会に、石破大臣の来訪について詳しく紹介する。